



## 報道発表

2021年7月7日

### Symbiobe 株式会社への新規投資について

京都大学イノベーションキャピタル株式会社（以下「京都 iCAP」）（本社：京都市左京区、代表取締役：楠美公）を無限責任組合員とするイノベーション京都 2021 投資事業有限責任組合（以下「KYOTO-iCAP2 号ファンド」）は、京都大学発ベンチャー企業の Symbiobe 株式会社（本社：京都市西京区、代表取締役：後圭介）に対する新規投資を実行いたしました。

#### ○今回の投資の概要

Symbiobe は、京都大学大学院工学研究科材料化学専攻の沼田圭司教授の研究成果である海洋性光合成細菌を用いた CO<sub>2</sub>・N<sub>2</sub> 固定及びバイオマテリアル等生産技術を基に、2021 年 1 月に設立された京都大学発ベンチャーです。また新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の 2021 年度研究開発型スタートアップ支援事業（NEDO-STs）に採択されています。

持続可能な社会を実現する上で地球温暖化対策は喫緊の課題であり、世界各国が短中期的な温室効果ガス削減目標と将来的なカーボンニュートラルを表明して、温室効果ガス排出削減に向けた動きが加速しています。日本でも 2030 年度に温室効果ガスを 2013 年度比 46%削減、2050 年にカーボンニュートラルを宣言しました。一方で、温暖化対策は従来の経済的な制約の視点ではなく、グリーン成長戦略として産業構造や社会経済に変革をもたらす大きな成長の機会と位置付けられています。

これらの世界動向に対し、Symbiobe の海洋性光合成細菌は CO<sub>2</sub> と N<sub>2</sub> を吸収・固定化できるためカーボンニュートラルの実現に貢献することが期待されます。また海洋性光合成細菌は固定化した CO<sub>2</sub> と N<sub>2</sub> から生分解性バイオプラスチック等のバイオマテリアルや窒素肥料を生産できる特性も持っています。そこでバイオマテリアルや窒素肥料により自然環境の保全や食糧不足の回避への貢献も目指します。

京都 iCAP は Symbiobe の海洋性光合成細菌による CO<sub>2</sub>・N<sub>2</sub> 固定及びバイオマテリアル等の生産技術の将来性を高く評価し、第三者割当増資による約 3,500 万円の新規投資を実行しました。今回の調達総額は総額約 7,000 万円で、京都 iCAP の他に Beyond Next Ventures 株式会社が運営する投資事業有限責任組合が参加しています。



## Symbiobe 株式会社 概要

設立 2021年1月  
事業内容 光合成生物を用いた温室効果ガス固定及び産業用バイオマテリアル・農業用窒素肥料・水産養殖用飼料生産に関する研究開発及び製造・販売  
本社所在地 京都市西京区  
代表取締役 後 圭介（うしろ けいすけ）

### ○京都大学イノベーションキャピタル株式会社（京都 iCAP）について

京都 iCAP は、京都大学 100%出資子会社として、京都大学を中心とした国立大学から生まれた研究成果を活用する企業を対象に投資やその他の事業支援を行っております。当社は現在、総額 160 億円のイノベーション京都 2016 投資事業有限責任組合（以下「KYOTO-iCAP1 号ファンド」）（2016 年 1 月設立）と総額 180 億円の KYOTO-iCAP2 号ファンド（2021 年 1 月設立）を運営しています。KYOTO-iCAP 1 号ファンドの満期は最長 20 年、KYOTO-iCAP 2 号ファンドの満期は最長 17 年に設定しており、基礎研究に強みを持つ京都大学の研究成果の実用化を長期にわたって支援することが可能となっています。また、KYOTO-iCAP 2 号ファンドでは、一部資金を京都大学以外の国立大学発ベンチャーに投資することとしています。

### 【お問い合わせ先】

京都大学イノベーションキャピタル株式会社  
〒606-8317 京都市左京区吉田本町 36 番地 1  
事業企画部長（広報担当） 河野修己  
TEL：075-753-7588 FAX：075-753-7592  
E-mail：info@kyoto-unicap.co.jp